

昼下がりの水辺

東京 大川端 リバーシティ21

日本の脊梁、奥利根が生んだ
清冽な水は、三百キロを流れ下り、
田園を潤し、人の暮らしを支え、
漸くこの世界都市へ到達した。
どこか潮の香りが漂う大川端、
陽光に映える高だかとした住まいが
水面にその長い影をゆらめかせ、
あたりの静寂を破って、水上バスが
やってきてはまた去っていく。
飛び交うかもめの甲高い声が、
都心の大気を鮮烈に切りさいていく。